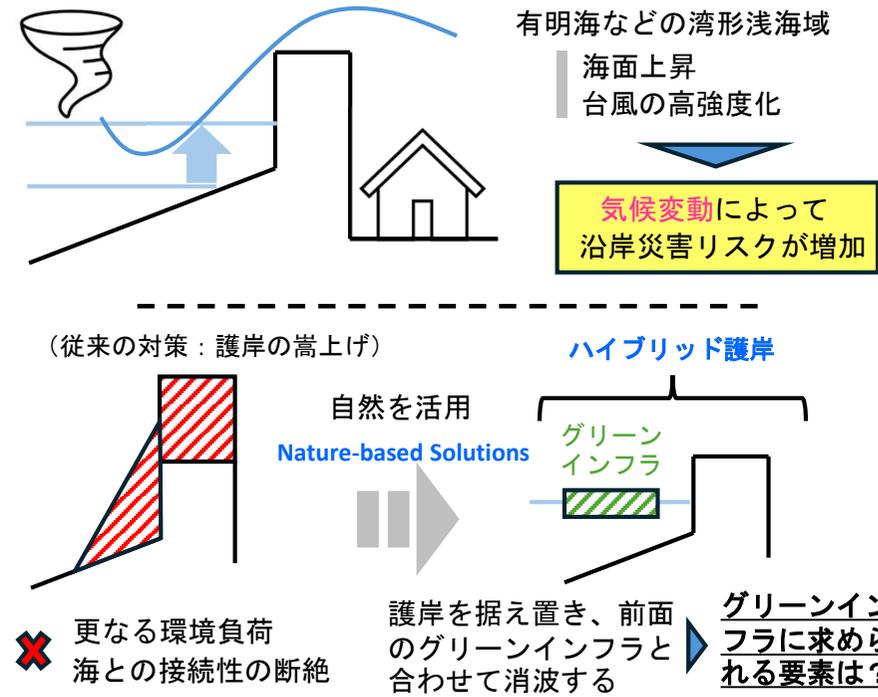


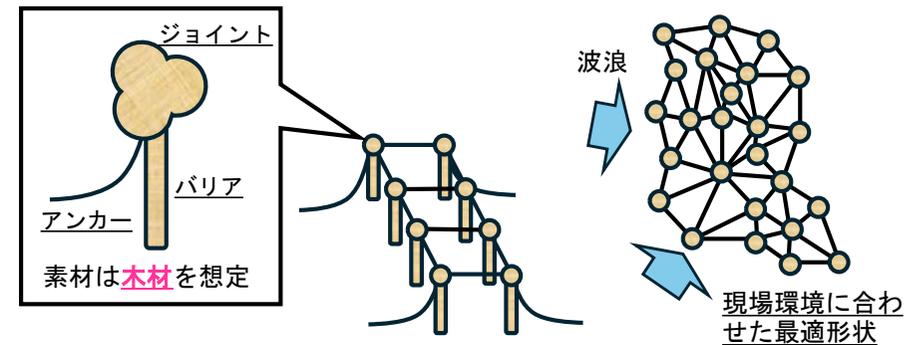
# 熊本発・自然共生型ハイブリッド護岸への挑戦

代表者 稲垣 直人 (先端科学研究部・工)

## 1 研究背景：将来の沿岸防災に自然を活用する



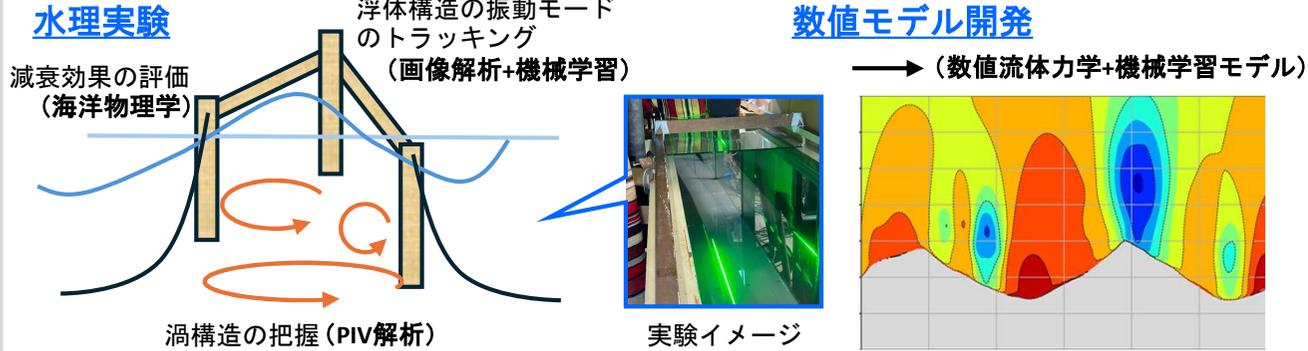
## 2 バリア式浮消波堤モジュールの提案



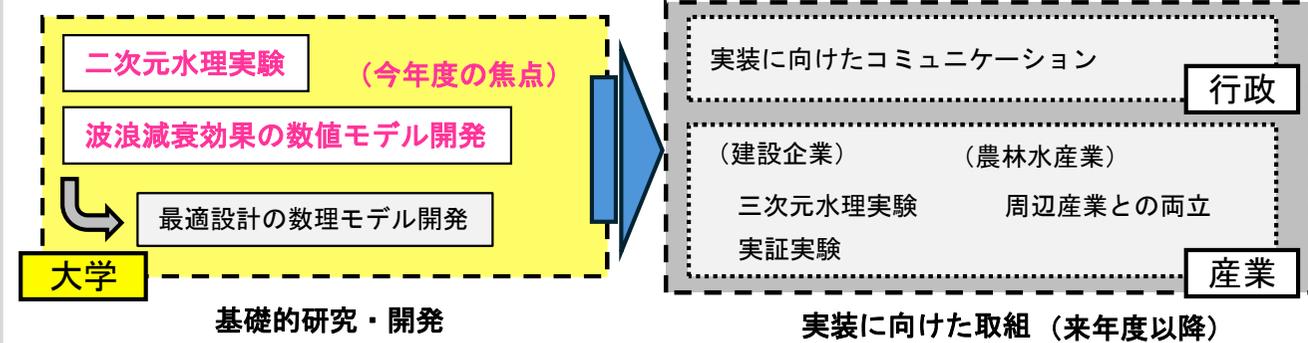
- 浮体式：海面変動に追従、潮流は妨げない
- フレーム構造：日光遮蔽による生態系への悪影響を防ぐ
- バリア式：渦の生起による波力の減衰
- モジュール式：施工性、経済性、地域最適設計に貢献

## 3 具体的なアプローチ

有明海の沿岸域への適用に焦点を当て、水理実験と数値モデルの開発を実施



## 4 本取組の立ち位置と将来展開の枠組み



## 5 本取組が掲げるビジョン・カーボンニュートラルへの貢献

確かな沿岸防災と低環境負荷を両立した社会基盤の提案

気候変動の適応を目指し、次世代の沿岸環境の基盤を創生する  
Nature-based Solutionsを日本の沿岸に適用する潮流をつくる

社会基盤におけるカーボンニュートラルに確かな取り組みを

自然を利用した構造・設計の工夫によるCO<sub>2</sub>排出の削減  
持続可能な沿岸整備の実装へつなげる

SDGsへの貢献



これらの展開を  
熊本から全国・世界へ